



と め
宮城県登米市における
6次産業化人材育成の取組



平成 2 7 年 3 月

宮城県登米市ブランド戦略室長 渡邊

1 登米市の紹介

- 宮城県北部に位置し、平成17年4月1日、登米郡8町、本吉郡津山町の合併により誕生しました。
- 人口は約8万5千人。面積536 km²。
- 布施 孝尚市長は合併後の初代市長。現在3期目。
- ラムサール条約指定地の伊豆沼・内沼、北上川、迫川など水資源が豊富な「水の里」です。



登米市の位置



布施市長



長沼公園とオランダ風車



宮城の明治村“とよま地区”旧尋常小学校

2 登米市の産業振興

- 1 自動車関連産業等の誘致、地元企業の育成
県北部の“ハブ”として、自動車関連企業などの誘致と関連産業の育成に取り組んでいます。
- 2 持続可能な成長産業としての農業の確立（1日1億円創出プラン）
東北を代表する食料供給地域として、農業を基軸とした6次産業化・アグリビジネスを推進しています。
- 3 地域資源を活かした起業・創業支援
農村部である“登米ならではの”の起業・創業を支援しています。

3 持続可能な成長産業としての農業の確立

登米市は東北を代表する食料供給地帯。環境、担い手の両面で持続可能な農業を確立し、成長産業に育成。

農業経営体(7,200経営体)、稲作(11,100ha)、豚(54,800頭)などで県内1位、肉用牛(26,900頭)生産は本州一。

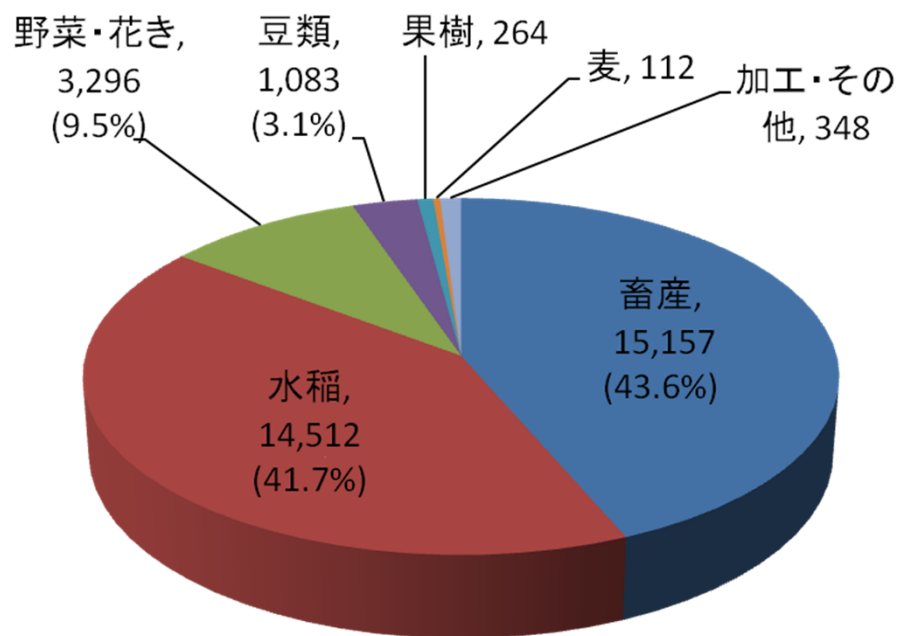
○地域全体で減農薬、減化学肥料に取り組んでいます。→水田の約8割(食味ランキング10年連続「特A」日本穀物協会)
・環境保全、GAP(農業生産工程管理)、トレーサビリティ等への取組により「登米ブランド」を推進。



4 6次産業化・農商工連携推進の背景

市の農業構造においては米の産出額が約4割を占めており、東北平均（約3割）よりも米への依存体質が顕著。

1. 登米市の農業算出額構成



平成25年 登米市の農業産出額(総額347.7億円)の構成(単位:百万円)

2. 米の消費量の推移



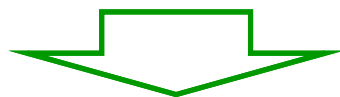
園芸、加工(6次産業化)など多角的な経営の確立が必要⁵

5 農業を成長産業にするための取組

○国の「総合化事業計画」の認定13は東北最多。

- ・全国では1,982の認定件数(概ね1市町村に1つ)
- ・農林水産大臣の認定を受けることで補助事業等のメリット措置が活用可能。

※農業法人の投資額、雇用創出効果は、地域においては大きく、貴重な存在。(平成26年度の緊急雇用事業では32人を新規雇用)



○市の単独事業「ビジネスチャンス支援事業」による地域ビジネス支援

- ・事業費1,000万円までの加工・販売施設の整備(ハード)、商品開発、販路開拓(ソフト)を支援。
- ・補助率1／2、補助限度額500万円。予算のある限り公募を継続。

6 地域資源を活かした起業・創業支援

農業分野の新規ビジネス支援で手ごたえ。市として初めて起業・創業支援を実施。

○登米市ふるさとベンチャー創業支援対策(平成26年度新規)

【目的】農業(6次産業化)、商業、工業分野における新規創業を補助金＋融資により支援。“小さな雇用”を創出。

【支援内容】

- ・300万円の補助金を交付(補助率10/10)
 - ・「登米市ふるさとベンチャー創業支援資金融資」を創設。
上限1,000万円、金利1%、信用保証料は全額市が負担。
- ※農業も対象とした自治体の創業融資は全国初

→産業競争力強化法に基づく創業支援にも取り組みます。

7 地域発ビジネスの創出を担う人材の育成

「登米アグリビジネス起業家育成塾」

(塾長: 東北大学大学院農学研究科 伊藤 房雄 教授)

- ・登米市独自の農業版“ビジネススクール”(平成25年度開講)
- ・東北大学の協力を得て、経営としての農業、ビジネスとしての農業を実践する“経営者”を育成。

【内容】先駆的経営者からの講義、法人化、マーケティング、財務・会計、税務、ビジネスプラン作成手法等を学習。



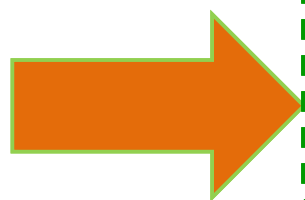
7-1 登米市の問題意識

課題1 新鮮で活きた情報に接する機会が少ない。学びの場がない。

- ・仙台から車で片道2時間。仙台で一極集中的に開催されている各種スクール等への参加が容易ではない。
- ・大学がなく、社会人が自己研さんを行う機会もない。

課題2 “経営者”が少ない。

- ・農業は盛んなものの、ビジネスとしての農業を実践できる方は少数。



地域の身の丈に合った形で人材を育成する
仕組みを導入すべき

7-2 塾を実施するための課題

1 予算

- ・市の謝金のレベルで講師を招聘できるのか。
- ・受講料は無償か、有償か。
- ・塾の開催への支援策の有無 など

2 カリキュラム

- ・塾生が満足し、効果のあるカリキュラムとは。

3 協力機関

- ・市だけで塾を運営できるのか。

7-3 人材育成の理念・特徴

○栽培技術を学ぶ場ではなく、経営を学ぶ場。

○地域農業の中核となる担い手育成の場。

○アカデミックなものより、ビジネスに即座に生きる講義。

○多忙な社会人が参加可能、かつ、農業のサイクルに配慮した日程の設定、補講の仕組み。

○異業種との交流の場。

登米アグリビジネス起業家育成塾カリキュラム

※ 毎週水曜日の18時を定例に開催(場所:登米市視聴覚センター等)

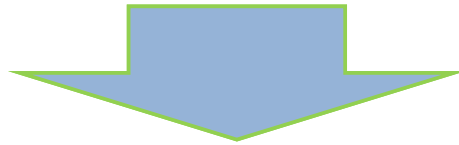
区 分	講 座	区 分	講 座
開講式	記念講演	財務・会計	財務分析
経営実践	組織マネジメント・人材育成		決算書・損益分岐点
	法人化		戦略マネジメントゲーム(2回)
	独自ブランド化		税務・会計実務
	マーケティング	事業化手法	経営理念・経営戦略
	畜産の経営		農産品の販売戦略
	園芸の経営		事業計画作成のポイント、手順
	融資制度、支援策		ビジネスプラン(事業計画)作成
現地視察	先進的経営体訪問		ビジネスプラン(事業計画)発表・評価
		修了式	代表者からビジネスプラン(事業計画)発表

7-4 塾を実施してみても分かったこと・効果

- ビジネスプランの作成までを学習することで、夢を現実に変える術が身に付く。
- 戦略マネジメントゲームは効果的。
- 講義、カリキュラムの力は限定的。塾での講義はあくまで動機づけ。
 - 選択と集中。
 - 塾生間の交流→触発、切磋琢磨

【最大の効果】

新しい取組に挑戦する意欲のある者が交流する場となった。



支援を必要としている者の効果的な発掘

“農業ほど人材を必要とする産業はない。”

- ・補助金だけでは農業の体質強化は図られない。
これを使いこなす人材の育成こそ必要。

ご清聴ありがとうございました。